

取組事例
施策 6

道路機能の有効活用



1 取組事例 小規模な改良による既存道路の有効活用

視認性が悪く幅員が狭い区間に待避所を設置し、交通の支障となっている箇所を解消を図ります。



(一) 三和大和線は地域住民の日常生活を支える生活道路です。当該区間は未改良で、幅員も狭小なことから、車両の離合が困難な区間が存在します。そのため、待避所を設置することにより事故防止と利便性の向上を図ります。



取組事例①の事業箇所概要

路線名	概要
(一) 三和大和線 (三次市三和町上巻)	待避所設置

2 取組事例 スマートICの整備等による高速道路の有効活用

山陽自動車道の福山SAにスマートICを整備することで、福山東IC付近の渋滞緩和や観光振興による地域活性化、地域住民の安心安全の確保等に努めます。



全国の平均IC設置間隔は概ね10kmですが、福山東ICと福山西ICの間は約17kmあります。そのため、2つのICの間にある福山SAにスマートICを整備することで、山陽自動車道がより一層利用しやすくなります。

福山東IC周辺の交通の分散による渋滞緩和



取組事例②の事業箇所概要

路線名	概要
(一) 御幸松永線 (津之郷)	L=約4.0km, W=6.0 (16.0) m
(一) 津之郷山守線 (津之郷IC)	L=約0.3km, W=5.5 (6.5) m

W=車道幅員 (歩道等を含む全幅員)

福山文化ゾーン※へのアクセス性向上



緊急搬送時間の短縮



3 取組事例 しまなみ海道を核としたサイクリングロードネットワークの形成とサイクリストの受入環境向上

国内外からのサイクリストに瀬戸内サイクリングロードでの安全・安心・快適なサイクリングを満喫してもらえるようサイクリングロードの利便性向上やブランド力の向上に取り組めます。



瀬戸内サイクリングロードにおいて、ブルーラインや案内標識などのルート案内整備や休憩施設の提供など受入環境の整備を行ったことで、サイクリング目的での来訪客数も大幅に増加しています。

国内外からの更なるサイクリング客誘致に向けて、官民一体でサイクリングロードの利便性向上やブランド力向上に取り組んでいきます。

瀬戸内サイクリングロードネットワーク図



ブルーラインの整備 全国へ波及



ノーマップサイクリングが可能 (しまなみ海道サイクリングロード)

休憩場所の提供



無料でトイレ、空気注ぎ、給水が可能 (さざなみ海道サイクリングロード)

4 取組事例 道の駅を活用した地方創生の取組

「道の駅」は地方創生の拠点として、地域課題等の解決のため、様々な役割を期待されています。これらの「道の駅」の取組を支援し、地方創生の流れを推し進めていきます。



県内の道の駅



「道の駅」は、休憩施設としての機能に加え、観光情報の発信や地域の特産品の販売などにより、地域経済に大きく貢献しています。さらに地方創生の拠点として、地域の高齢者の買物支援やイベントの開催等、様々な取組が行われています。

これらの取組について、関係機関と連携して支援し、道の駅のさらなる活性化に取り組めます。



トイレ改修の例 (道の駅「ふおレスト君田」) 広域連携イベントの例 (やまなみ街道フェア)

県内で2つの「道の駅」が重点「道の駅」に選定

クロスロードみつぎ、ゆめランド布野が、国土交通省から重点「道の駅」に選定されました。これにより、地方創生の拠点として重点支援されます。



地元の御調高校生が参加した道の駅でのパイプフェア

H26 クロスロードみつぎ (尾道市) 選定

地元高校と連携した商品開発やインターンシップなど地域活性化の拠点として優れた取り組みが評価。

H27 ゆめランド布野 (三次市) 選定

尾道松江線の開通により、交通量が減少した国道54号沿線の4つの「道の駅」が相互に連携し、地域の暮らしを持続的に支える環境構築に貢献している取り組みが評価。



連携サイクリングイベント (道の駅グルメライドin中国山地)